

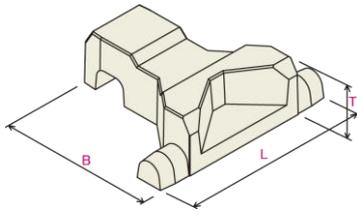
技術概要書（様式）

※別紙2

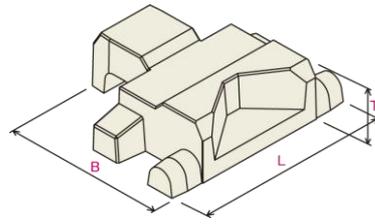
技術分類	安全・防災 維持管理 環境 コスト ICT 品質 （該当する分類に○を付けてください）		
技術名称	cv絆	担当部署	技術本部開発設計部
NETIS登録番号	CG-110014-A	担当者	櫻木喜久
社名等	株式会社ヤマウ	電話番号	092-872-3352
技術の概要	<p>1. 技術開発の背景及び契機</p> <p>従来、河川の法覆工は連結ブロックや間知ブロック張りに対応されていました。又その施工のためには仮締め切りを行い水替え工によってドライ状態にして施工されることが一般的でした。しかし現在は建設労働者の減少に伴う施工性の簡略化や工費の縮減などが求められています。</p> <p>2. 技術の内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・従来技術は、シャックル連結や鉄筋溶接等の連結金具を必要でしたが、本技術は、ブロック同士の連結を噛み合わせによるヒンジ構造としたため、連結金具及び連結作業が不要となります。 ・従来技術は、生態環境に配慮した空隙部がありませんが、本技術は、生態環境に配慮した空隙部ができ、敷設後に客土や詰石を行う事で環境保全型護岸を構築できます。 ・従来技術は、仮締め切り・水替えを必要としましたが、本技術は、水中施工が可能なため仮締め切り・水替えを必要としません。 <p>3. 技術の効果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ブロックを連結する鉄筋等を必要としないため耐久性に優れ、製品同士の噛み合わせのみの施工のため、不陸等にも追従できます。 ・従来、河川・海岸工事で行われてきた仮締め切り・水替えを必要としないことで、工費を削減でき、工期を短縮できます。又、環境面では矢板等の打込みによる振動・騒音等の心配や、地下水の遮断による井戸枯れ等の心配も減らせます。 ・連結金具の取付等にかかる作業が削減でき、作業事故の発生が少なくなります。 ・汽水域等においても、連結金具の腐食による劣化の心配がないので耐久性に優れています。 ・ブロックの配列方法を変えることで、客土や詰石を行える空隙部を変えることができ、現地の状況に適した護岸造りができます。 <p>4. 技術の適用範囲</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ブロックの荷卸し、所定のクレーン(ラフテレーンクレーン25t吊が標準)が搬入、作業できる作業ヤードの確保が必要です。 ・河床が安定し、洗堀が起こり難い現場に適用できます。 ・設計流速6.0m/sec程度以下の現場に適用できます。 ・法勾配1:1.5より緩い現場に適用できます。 <p>5. 活用実績</p> <p>国の機関 5 件（九州 3件、九州以外 2件） 自治体 15 件（九州 9件、九州以外 6件） 民間 0 件（九州 0件、九州以外 0件）</p>		

6. 写真・図・表

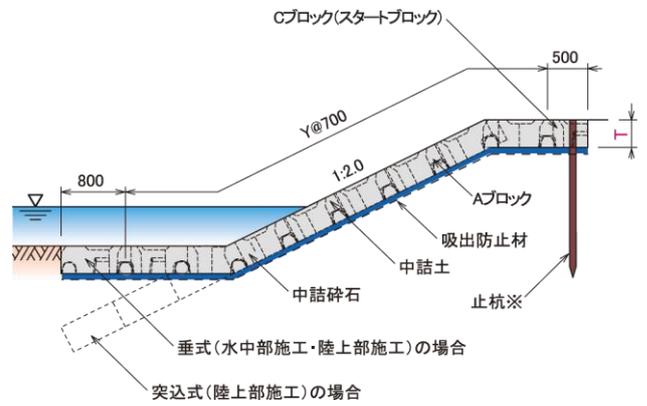
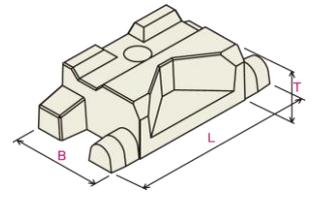
Aブロック



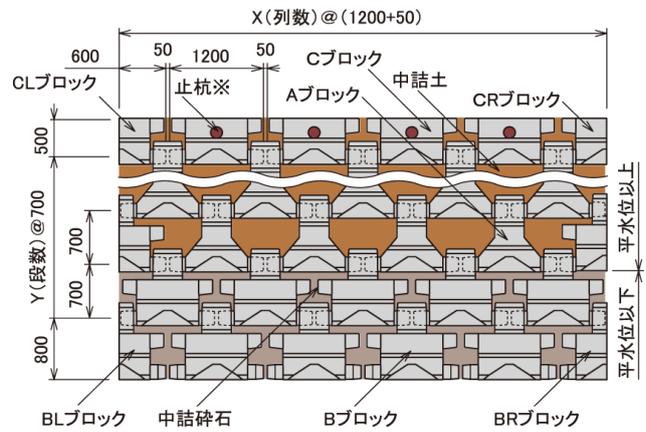
Bブロック



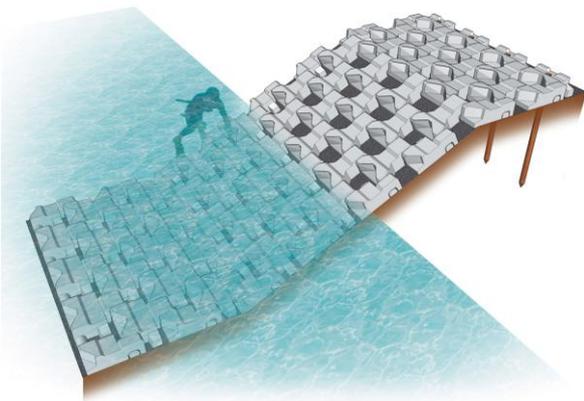
Cブロック



参考断面図



参考展開図



Aブロック配列

